

## 八 識らず廬山の眞面目

東坡居士、かつて京師にあるの日、年少氣英の資を以て、遍く天下の名僧知識を検せんと志し、偶玉泉の皓禪師を訪ふ。禪師問うて「貴官の名は」といへば「秤」と答へる。謂ふころは、天下の名僧知識を片つ端から秤にかけてみやうぞと、云ふ意氣込。禪師忽ちカツと大喝一聲「此の一喝重さ多少ぞ」この一喝の重さ、秤にかけてみよ、とてもかゝるまいぞ、棒が折れて了ふぞとやられて、流石の東坡もぎつくり、返事が出ない。去つて金山寺の佛印禪師に就く。東坡、佛印の室に入らんとするや、忽ち一聲「この間、汝の坐處なし」這入つても坐る處はないぞ。暫く和尚の四大を假りて禪床とせん」和尚の頭でも圓座にしませう。何ッ頭でも、「山僧の四大もと無、五蘊有にあらず、何を以てか禪床とせん」四大五蘊一切皆空。何處へ坐るのか。うつかり坐つて腰が抜けやうぞ。とやられて東坡またも石地藏。爾來熱心に研鑽の功を積んで、漸くその妙境に達した。

東坡の禪は一個の廬山を以て盡されてある。その廬山も見やうによつては種々である。須く活眼を開いて根柢に徹せねば、所詮得る所はありませぬ。居士が投機の偈は左の三首であります。

横看成嶺側成峰 遠近高低各不同

不識廬山眞面目 只緣身在此山中

同じ一の廬山でも「横さまに看れば嶺となる、側てば峯となる」平つたく布團きたる姿の嶺ともなれば、突出つて聳えた峯とも成る。「遠近高低各同じかrazu」悉くが違つて見える。何れが廬山の眞面目か。どつちともつかぬ。廬山の本來は、高からず、低からず、遠からず、近からず、嶺にあらず、峯にあらずして、同時に嶺たり峯たり、近くあり遠くある處に存するのである。

人生は詰まらぬものと云ふも眞面目ならず、人生は結構なものだと云ふも眞面目ならず、人生は詰まらぬものであつて、而も同時に結構なものである。人生に頭を突込んで居ては、人生の眞相は見えぬ。「廬山の眞面目を知らざるは、只身の此の山中に在るに縁る」。廬山の中に這入つて居ては、到底解るものでない。遠近高低四方八面から望んで、初めて其の眞面目を窺ふことが出来る。

廬山煙雨浙江潮 未到千萬憾不消

到得還來無別事 廬山煙雨浙江潮

差別が即平等、平等が即差別。遠近高低のあるまゝが無い。無いまゝが有る。書き來つた廬山の眞面目を打破し去つて、そこに現はれ來る眞の面目、正見から出で、正見に還る。こゝに絶待の妙味がある。この妙味を味ひ來つて、果然實在の妙音に接し、天地の好景を看取し、法身の靈境に徹到するこゝが出来る。

溪聲即是廣長舌 山色豈非清淨身

夜來八萬四千偈 他日如何舉示人

よりは、唯一藝に達せよ。そこに無限の靈光は輝き來らん。獨り廬山の對觀のみならず、指頭屈伸の啞問答、亦不盡の靈音に接することが出来る。

或禪寺へ行脚僧が來て、和尚に面會を乞ふた。取次の小僧氣をきかしてか「和尚は留守ぢやが用事なら聞きますせう」といふ。「小僧では駄目だ」と嘲笑ふ。「形は小さくとも智慧は大きくござるぞ」とやつた。此奴面白いと行脚僧は、指で小さい輪形をして見せた。小僧すかさず大手を廣げて見せる、指一本を出せば、五本を出す。更に三本を出せば、指で一寸目の下を押へる。行脚僧は

恐れ入つて三拜九拜愴惶に去つてしまつた。行脚僧の方では、小さい輪を造つてお前の胸はと問へば、大海の如しと大手廣げる。お前の一身はと指一本出せば、五戒を持つと五本出す。三界はと三本出せば、目の下にありと目の下を押へる。最う叶はないから逃げ出したのである。處が肝心の和尚には一向解らぬ。襖陰から見て居て不審で堪まらない。小僧を呼んで聞けば、小僧の曰くさ。「あれは屹度俺の生れを知つて居ると見えまして、お前の内の餅は此位ぢやと、小さな輪をしてみせますから、恁んなに大きいのだと手を廣げて見せました。一文かと一本出したから、五文ぢやと五本出せば、三文にせよと云ふから、赤目をしましたのぢや」と云つたとの話。同じ指と指との問答ながら、此中に一大眞理を發見するのも、餅屋問答位で濟ますのも、皆其人の見識如何によるのであります。

これに似た話が米國にもあつたと云ふ。英國の哲學博士が米國の大學を參觀した折のこと。この大學に片目の小使で、至極面白い男ををる。職員連中博士に向つて「我校に啞の哲學者があります、博士之と問答せられては」と申込み、一方小使の男に向つては「今日英國の啞の學者が來られたゆゑ、汝も手眞似して話せ、決して喋舌つてはならぬ」と言渡し、後博士と小使と一室に入る。博士はつくづく小使の顔を視入つて、指一本を示し「萬物唯一神」と聞く。小使指二本を以て「天地」と答ふ。博士大に感心し、今度は指三本を出し「天地人と別つべきものならずや」と聞くと、小使直に拳を揚ぐ。これは「三體ありと雖も、合して一體なり」と答ふるに似てる。茲に博士は恐縮して去る。後で小使の曰く「今の啞は人を馬鹿にしてゐる。己の顔を穴のあくほど見やがつて、指一本で片目だなアと云ふから、左様です、貴下のは二つあると、己が指を二本出す。すると又指三本出しやがつて、合せて目が三つあ

ると云いふから、糞くそツ、思おもはず、拳固げんこを固かためた。奴やつこさん慄ふるへ上あがつて逃にげ出だしたのよ。ざま見みやがれ」。